シグマ研究委員会

６２年度第６回運営委員会議事録

日時　　昭和６３年２月８日（月）１３：３０－１７：３０

場所　　幸ビル　１３０９会議室

出席者　鹿園（委員長：原研）

椙山（東北大）、中嶋（法大）、村田（NAIG）、若林（動燃）、

五十嵐、金子、長谷川、水本、（原研）

幹事：浅見、中川（原研）

オブザーバー：川合（NAIG）、瑞慶覧（日立）、田村、内藤（原研）、

松延（住友原工）

配付資料

１．　６２年度第５回運営委員会議事録（案）

２－１．核データ専門部会グループリーダ会合議事録（案）

２－２．核データ専門部会活動計画討議用資料

３．　炉定数専門部会資料

４．　６３年度シグマ研究委員会名簿（案）

５．　Circular to the Programme Committee of IAEA Consultants' Meeting on the Physics of Neutron Emission in Fission

６．　A.B. Smith氏からの手紙（１）

７．　五十嵐氏からA.B. Smith氏への返事

８．　P.G. Young氏のコメント

９．　A.B. Smith氏からの手紙（２）

１０．　五十嵐氏からA.B.Smith氏へのテレックス

１１．　V. Goulo氏からの手紙

１２．　D.C. Larson氏のコメント

１３．　Summary Report on IAEA Specialists' Meeting on the International Nuclear Data Library for Fusion Reactor Technology

１４．　核種生成量評価ワーキング・グループ活動報告

１５．　核構造データの評価と利用サービス

議事

１．前回議事録確認

資料１により確認を行った。

２．６３年度専門部会ＷＧ活動計画

（１）核種生成量評価ＷＧ

内藤氏から資料１４により、核種生成量評価ＷＧの６２年度の活動状況ならびに６３年度の計画について説明があった。

これに対する討論の中で、シグマ委のＷＧ作業と研究室独自の仕事とが一体となっているので分離する必要があるとの指摘、作業スケジュールを明示して欲しいとの要請等があった。

（２）核構造データ評価グループ

田村氏から資料１５によりMass Chain 評価とENSDFの利用状況について報告があった。

これに対する質疑応答の中でアドバイザー制度は既に廃止されたこと旧アドバイザー委員の扱い等が話し合われた。また、田村氏の後任について討議が行われた。

（３）医学用原子分子・原子核データＷＧ

前回以後の関係者との連絡について中嶋氏から報告があり、拡大幹事会を早急に開いてもらうことにし、事務局がアレンジすることにした。

（４）核データ専門部会

村田氏から資料２－１を用いて、昨年１２月１４日に行われた核データ専門部会のグループ・リーダ会合の概要ついて報告があり、また、水本氏、中川氏、川合氏からそれぞれ中・重核データＳＷＧ、重核データＳＷＧ、ＦＰ核データＷＧの活動の概要について説明があった。熱中性子散乱則ＳＷＧ、核融合核データＷＧ、特殊目的核データＷＧについては村田氏から説明があった。この中で核データ専門部会は６３年度は現状組織を存続すること、タスクフォースを設けて有効な討論をするようにしたい等の説明があった。

これらの説明について質疑応答・討論が行われた。、この議論の中で、五十嵐氏からＩＮＤＬ／Ｆ会議に関連して資料１１～１３の紹介とともに核データ国際会議の際にＩＮＤＬ／Ｆに関する小会議を予定していたがＩＡＥＡからとりやめる旨の連絡のあったことが報告された。また、椙山氏より４月１１日からのＩＳＮＦＴについてのアナウンスがあった。

村田氏から資料２－２を用いて、核データ評価に関するアンケート集計途中結果について報告があった。

（５）炉定数専門部会

長谷川氏から資料３を用いて６３年度の作業計画の説明があった。その中で６３年度の主要課題はＪＥＮＤＬ－３の積分テストで、６３年度で修了の予定であること、ＳＷＧでは計画の検討を行い実作業は外注する作業

体制で臨みたいとの説明があった。また、ＪＥＮＤＬ－３をＦＢＲに使用する際の問題点について３月中にＪＥＮＤＬの拡大編集グループ会合を開いて討議したいとの報告があった。

これに対して、ＪＥＮＤＬ－３がＪＥＮＤＬ－２よりも優れていることを明示する必要のあること、また、ＪＥＮＤＬ－３の完成時期を早急に決めて欲しい等の意見があった。

３．委員会人事

浅見氏から６３年度シグマ研究委員会名簿の事務局案（資料４）の説明があり、木村氏（京大）、山内氏（原研）、杉本氏（原研）を追加することにして了承された。

４．委員会将来計画

五十嵐氏より、A.B. Smith氏からデータ評価作業を共同でやることについての提案（資料６）のあったこととともに、それに対する五十嵐氏の返事（資料７）の説明があった。討議時間がなかったため、この件については各自で検討してもらうことにした。

５．その他

（１）IAEA Consultants' Meeting on the Physics of Neutron Emission in Fission

五十嵐氏から資料５により、標記のIAEA諮問家会議のpreliminary programmeの説明とともに参加希望者がいたら連絡して欲しいとの要請があった。また、この会議の概要を核データ国際会議でBoldeman氏から報告してもらう予定であるとの説明があった。

（２）Decay Heat Code の相互比較

五十嵐氏から、標記に対するT. England氏およびA.B.Smith氏の意見（資料８、９）の紹介とともに、崩壊熱評価ＷＧの意見をまとめて返答したテレックス（資料１０）の説明があった。

（３）６３年度核データ研究会

来年度の研究会をどうするかについて討議を行い、次回に具体案について議論をしてプログラム委員会を発足させることにした。

今後、action listを毎回作ることにし、事務局でひな型を作成することにした。

次回は３月２２日（火）に東京で拡大運営委員会として開くことにした。